



—北アフリカ地域ニュース—

リビア：カッターフィー指導者とアラブ系イスラエル議員の会談 (4月27日付現地紙)

4月27日付現地紙は、カッターフィー指導者の発言内容（概要）を次の通り報じている。

1. 今般（4月25日）、自分とアラブ系イスラエル議員との会談が実現したことには、歴史的意義がある。アラブ系イスラエル議員（アラブ48）は、イスラエルによる占領の事実を世界に向けて伝えなければならない。世界は、いわゆる「反ユダヤ主義」に敏感であり、イスラエルは自国の行為を非難するものを反ユダヤ主義と断じること、自由を守るべき西側諸国のメディアや知識人に圧力を与えている。しかし、イスラエルを嫌悪することと、反ユダヤ主義とは無関係である。
2. イスラエルで総選挙が行われるたびに、パレスチナ人が虐殺されている。国連およびアラブ連盟は、こうした問題を取り上げる必要がある。
3. なぜ、国際社会はスイスによるモスク尖塔建設禁止を非難しないのであろうか。これは人道的、文明的行為ではなく、野蛮な人種差別主義による行為である。自分は、先般、スイスに対するジハードを主張したが、それはテロ、植民地主義、あるいは侵略を意味したものではなく、モスクや信仰を守るためのジハードを説いたのである。
4. 自分は、アラブ諸国に対して、イスラエル国籍を保有することを理由に、アラブ系イスラエル議員をボイコットするべきではなく、また、パレスチナ人同胞ではなく、シオニストである真のイスラエル人をボイコットするべきと指摘する。  
アラブ・イニシアティブは、67年時の国境に戻ることを主張しているが、問題は67年以前から始まっている。すなわち、アラブ諸国は何故、48年、56年、そして67年に闘ったのであろうか。自分は、67年時の国境は認められない、67年以前の我々の犠牲者を忘れることができない。
5. パレスチナ問題の解決の為には、自著「白の書」で主張するように、イスラエル人とパレスチナ人が共存する1国家「イスラタイン」の建設が必要である。もし、全てのパレスチナ難民が帰還し、イスラエルが核兵器を放棄すれば、南アフリカのような民主国家が誕生することとなる。他方、イスラエルの核保有が承認されるのであれば、アラブ諸国の核保有も同様に認められなければならない。